

「類義語その3と助動詞」

今年ももう最後になりました。皆様のご協力に感謝し、fruitful で brighter な良い年をお迎えくださることと、来年も引き続き共に成長できる事を期待してこの雑談をお送りします。

最初にちょっとしたクイズで頭を使ってみましょうか。次のカッコ内に入る英語は、何になるかちょっと考えてみてわかるでしょうか。(ヒント：一仕事を終えて休んでいると思いがすが。。。)

(), Dasher, Dancer, (), Vixen, Comet, Cupid, Donner, ()

それでは、今回も動詞の synonyms として、「許す」と「禁止する」について使い方の違いを中心に自分なりの理解と調べて確認した結果から整理してみます。

「許す」の ALLOW, PERMIT, ADMIT, FORGIVE, PARDON, と EXCUSE

allow は、人に何かの行為を許す、許可するなどの意味となり、良く使われる用法として“allow 人 to 動詞”で人に～することを許すなどの表現や、allow access で入室できるなど となります。容認しているようなニュアンスかと思えます。

permit も allow と同じような用法ですが、こちらは(法律や規則によって)許可することを意味していて固い感じがします。

admit は、permit と同じような意味ですが admit my guilt 罪を認めるなどでも使われるように(しづしづ)認めるといったニュアンスにも使われます。また、“admit 人 to ~”の表現の場合の“to”は、不定詞ではなく前置詞となるので、～の部分は動詞ではなく名詞を使います。admit you to our club 入部を許す/認める。

forgive は、許可する意味ではなく、(罪などを)許す の意味となり “forgive 人 for ~”で「～(内容)について人を許す」などの使い方となります。

pardon と excuse も forgive と同様な範疇で(あやまちを)許す の意味で使われ、excuse は、ちょっとしたことを許すとのニュアンスで軽めの意味合いとなります。“Excuse me.”「(ちょっと)失礼」などで使いますね。

「禁止する」の FORBID, PROHIBIT, と BAN

forbid は、「禁止する」の意味で最も一般的な用語です。個人的に禁止する場合などで使用され、antonym (反意語)は、allow となりますので、接頭辞の dis-を使って disallow も forbid と同様な使われ方で禁止することを表しますが、許さないとか却下するなど使われます。

prohibit は、forbid よりも強い意味の禁止で、公的や法的または、権力によって禁止する場合に使用されます。この antonym は、permit になります。似た言葉で、inhibit がありますが、これは、「抑制する・阻害する」などで、restrict や prevent などの範疇に入るかと思えます。

ban は、危険なものや悪いとみなされるものなど非難の対象となるようなものを公的・法的に禁止することを表し、prohibit との明確な違いはないのですが、スローガンなどでは、prohibit よりも ban が多く使われるような気がします。今年、ノーベル平和賞を受賞した ICAN のメッセージでも“Nuclear Ban Treaty Negotiation in 2017”があります。

これら以外でも、bar は「棒」を表しますが、棒でさえぎることから「禁止する」ことを表し、“Swimming is barred here!”は「ここでの水泳を禁じる」となります。調べていて遭遇した言葉で、interdiction という禁止を表す名詞ですが、これが動詞として「(命令によって)～を禁止する」の意味で使われる場合もありました。

助動詞 (auxiliary verb) のまとめ

次に、ひとつの整理学として、助動詞についてまとめて一覧にするのとその使い方についての個人的な感覚も含めて説明を試みます。文脈や使用場面で微妙なニュアンスになる場合がありますが、大括りでのまとめでざっくりとした全体像としての記載としてみます。具体的な使用例などは、いつか時間があるときに考えてみます。

確実性：～だろう will (確実性の度合いで強い順では、will (90%) > may (50%) > could > would > might (数%))

意思未来：～するつもり will, be going to (will は、その場で決めた意思で、be going to は事前に決めていた意思)

過去の強い意思：どうしても～しようとした would (過去のある時点からみた未来に対する強い意思を表現)

可能：～できる can, be able to (be able to は、can に比べてちょっともったいぶった表現かと)

許可：～してもよい can, may, might (Can/May I ~? よりも Might I ~?の方が丁寧な表現)
依頼：～してくれませんか can, could, will, would (Could you ~? が一番丁寧な依頼の表現)
推量：～に違いない must, should ～かもしれない may, can (推量の確実性が強い順では、must (90%) > should > may (50%) > can (数%)) また、当然の推量を表す ～するはずだ の意味の ought to も含めます。
義務：～しなければならない must, have to や ～すべきだ shall, should, ought to (否定文の mustn't や shouldn't は ～してはいけない、～すべきでない などの禁止の意味になりますが、don't have to は ～する必要はない となります)
過去の習慣：よく～したものだ would, used to (would の場合は、今もしている可能性を表し、used to は、昔はしていたが、今はしていないことを意味することになります)
過去の状態：以前は～だった used to (これも過去の習慣と同じように、今は～ではないが、昔は～だった との使用方法となります)
忠告：～したほうが良い had better (義務の should よりも強い意味)
必要：～する必要がある need (使用頻度は低いですが、肯定文では使用せず、否定文や疑問文でのみ使われる)
挑戦：～する勇気がある、あえて～する dare (これも使用頻度は低いですが)

上記の義務の分類に shall を含めていますが、普通はあまり出会う機会が少なく契約書や仕様書で使われることが多いように思います。インターネット標準を規定するIETFのRFCでは、shall と must はrequired を意味し、should は recommended を意味すると定義されています。

意志未来で書いた be going to について、追加の説明となりますが、be about to も使われます。その違いは、be going to は未来のいつかにしようとしているいつかは分からないが先の予定の意思ですが、be about to はまさにしようとする今すぐの予定の意思を表します。

忠告の had better は、何となく "You had better ~, otherwise ~." 「～した方が良い、さもなければ～」のような脅迫めいた感覚を持ってしまうので、あまり使いません。すべきことをしなかった際に少し意見をする場合によく使うのが、should + 現在完了で "You should have done ~" 「～すべきだったのに (しなかった)」と現在の失敗の理由が過去の原因であった場合に、今後の改善に向けた指導として使ったりします。

助動詞としての need は、動詞の need でも同じ意味を表すので、あまり使われていないように思いますが、「行く必要がない」の同じ意味を表現するには、need not (省略形 needn't) go, don't need to go, don't have to go などになります。

dare もあまり使う機会は多くありませんが、"How dare you ~!(?)" などに出てきて、「よくもまあ～できるものだ」などの相手を非難する際に使うことがあります。

いかがだったでしょうか？行間を開けずに、文章だけの記述としてしまったので読みにくかったかもしれませんが、来年もまた、皆さんに「ヘエ～」とか「エッ!？」となりそうな英語話題を見つけて書いて行くようにします。

冒頭のクイズの答えも書いておきますね。

そうです。Santa Claus の sleigh を引く reindeer の先頭からの並びの名前になります。

答え： (Rudolph), Dasher, Dancer, (Prancer), Vixen, Comet, Cupid, Donner, (Blitzen)